

---

# 軍服の裏

坂田火魯志

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

軍服の裏

### 【Zマーク】

N6677S

### 【作者名】

坂田火魯志

### 【あらすじ】

明治帝の逸話を書かせてもらいました。SmileJapan  
企画作品です。

## 軍服の裏

一国の君主であられた。しかも所謂王侯よりも上位とされているだ。

皇帝、我が国の言葉では天皇と呼ばれる。明治といつ我が国の歴史においてとりわけ重要な時代の象徴であられその発展と興隆の軸であられた。

明治帝とはそういう方であられた。その明治帝はだ。

ある田のじとだ。帝は日々會議にや御政務に勤しんでおられた。その際常に軍服を着ておられた。

白馬に跨る大元帥陛下、明治帝はそのイメージで語りられることが多かつた。それは今現在でもそうである。だからこそ常に軍服を着ておられた。これはこの時代の君主ならば誰でもそつだ。軍服は二十世紀、二十一世紀よりもだ。公の場ではより一般的であり普遍的なものであったのだ。

だからこそ帝は軍服を着ておられた。しかしその軍服がだ。裏である。軍服の裏が破れていた。それを見た侍従か武官、とにかく帝の御傍にいる者がだ。いつ言つたのである。

「すぐに軍服を取り替えましょう」

裏が破れている軍服など君主が着るものではない、だからだとうのだ。これはどの国においてもだ。普通に言われ考えられていることである。

それで帝の軍服を取り替えよつとした。しかしだ。

帝はだ。じつその者に言われたのだ。

「よいのだ」

「よいとは？」

「裏が破れているのならなおせばよい」

これが帝の御言葉である。

「破れたところを縫えばそれでよいのだ」

「あの、ですが」

「破れても縫えばまた着ることができる」

「帝は仰る。さらにだ。」

「それだけではないか。軍服を取り替えるまでもない」

「左様ですか」

「その程度のことでの取り替えではきりがない」

「服が何枚あつても足りない、こういう意味であった。」

「服を何枚も無意味に使つものではないのだ。だからこれでいいのだ」

「左様ですか。それでは」

「後で縫わせる。そしてまた着ることにする」

「こう仰りだ。実際にだ。」

その軍服の裏は縫われ帝は再びその軍服を着られた。そして何もなく済んだのである。勿論新しい軍服は出されなかつた。

これが明治帝の軍服での逸話である。贅沢を好まず質素儉約を旨とされていた。そうした資質を持つておられる方が明治という我が国的重要な時代の元首であられたことは我が国にとって幸運であろう。昭和の昭和帝と並び我が国の近代における英邁な帝である。そのことはこうした何でもないような逸話にも出ていると言つべきであろうか。この高貴な質素さはだ。今も我が国の皇室に連綿と受け継がれている。まことに貴いものと言つしかない。

2  
0  
1  
1  
•  
4  
•  
2  
2

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6677s/>

---

軍服の裏

2011年6月28日06時35分発行